## 令和5年度 事後評価対象事業一覧表

今和5年4月作成 事業計画 整理番 工 期 事業費 該当基準 事後評価の評価項目 事業 事業名/施設名 事業概要 箇所 着工 完了 (億円) 費用対効果の選定の基礎となった要因の変化 【再評価時(H28)】 【事後評価時】 · B / C 1.11 1.04 ·工期 H30 H30 ·事業費 19.2億円 18.8億円 事業の効果の発現状況 ·防波堤及び物揚場の整備により、港内静穏度の向上や係留施設が増加したことで、荒天時の多層係留の解消や陸揚・準備等の重労働作業の軽労化等が図れた。 また、家屋の越波や飛沫被害の解消が図れた。 再評価実施 道路の拡幅工事により一旦停止等が不要となり、転落、衝突事故の恐れも改良された。 防波堤(東)35m 全体事業費事業実施による環境の変化 10億円以上 なし 港湾-1 大島港改修事業 平戸市 道路(改良)4×240m H13 H30 18.8 物揚場(-3m)(突堤)30m 事業完了後社会経済情勢の変化 5年経過 新型コロナウイルスの影響により漁獲量が減少していたが、ビーク後は立て直しつつある。 対応方針(原案) 当該事業に係わる対応方針 同種事業に係わる対応方針 (今後の事後評価の必要性、改善措置の必要性) (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性) 大島港改修事業により、水産物生産性コストの削減や道路整備による移動ロスの削減 本事業の見直しの必要性はないが、今後の同種事業においては、関係機関と連携し適 が図られていることから、今後の事後評価の必要性、改善措置の必要性はないと判断 切な事業監理に努め、事業効果が早期に発現されるよう早期完成に努める。 費用対効果の選定の基礎となった要因の変化 【再評価時(H27)】 【事後評価時】 · B/C 1.31 7 88 47.0億円 54.8億円 ·事業費 ·取扱貨物量 184,998 / /年 外航クルーズ船の寄港回数 71回/ ·災害時緊急物資 1,502<sup>ト</sup>ン/月 年 災害時緊急物資 4,958 / 2/月 事業の効果の発現状況 ·佐世保港における外航クルーズ船の寄港回数が、0回(H21) 105回(H30)に増加した。 ・佐世保港における外航クルーズ船による一時上陸者数が、0人(H21) 231.802人(H30)に増加した。 ・佐世保港における大規模震災時に取り扱える緊急物資量が、0~/月 4.958~/月に増加した。 再評価実施 大規模地震発生後の施設復旧費を回避することができる。 岸壁(耐震)(-10m)170m 全体事業費 佐世保港改修事業 10億円以上 事業実施による環境の変化 左世保市泊地(-10m)20.3ha H21 H30 54.8 三浦地区国際物流ターミナル整備事業 岸壁(-10m)100m 特になし 事業完了後 5年経過 社会経済情勢の変化 特になし 対応方針(原案) 当該事業に係わる対応方針 同種事業に係わる対応方針 (今後の事後評価の必要性、改善措置の必要性) (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性) 新型コロナウイルスの影響により外航クルーズ船の寄港が一時中断していたものの、 令和5年3月16日には本港においても外航クルーズ船の受入れを再開している。また、 平成30年に105隻の寄港を達成する等、一定の需要を確認していることから、今後の事 業評価は必要ないと判断している。